

勸進帳がつないだ心と交流

1940-2020
小松市制
80
周年

1841(天保11)年に七代目市川團十郎によって初演された歌舞伎「勸進帳」。
以来、市川宗家のお家芸に選定され、「歌舞伎十八番」として人気を博しています。
感銘深い名作として上演され続けている「勸進帳」とその舞台である小松との関わり
について、初演から180年の節目を機に振り返ってみましょう。

特集に関する問い合わせ

観光文化課 ☎24・8076

「歌舞伎十八番の内 勸進帳」 あらすじ

兄頼朝に追われる身となった義経は
弁慶をはじめ、わずかな家来を連れて
山伏に変装し、奥州平泉へと北陸路
を急ぎます。
その途中、加賀の国「安宅の関」に
差し掛かった一行は、そこで待ち受ける
関守の富樫左衛門に見とがめられ、

関所は緊迫の事態に。力で通ろうと
する四天王を制しつつ、知力の限りを
尽くしその場を切り抜けようとする
弁慶。
金剛杖で打つてまで主人をかばう
弁慶の忠義心に感銘を受けた富樫は、
義経一行と知りつつ通行を許します。

十二代目 市川團十郎さんとの縁

昭和62年、「勸進帳小松・八百年祭」記念行事
で十二代目市川團十郎さんが小松で「勸進帳」の
弁慶を演じられたことを契機に、市川宗家との
縁が始まりました。

その後も小松へ何度もお越しになり、子供歌
舞伎「勸進帳」や曳山子供歌舞伎、中学校古典教
室「勸進帳」の演技指導をはじめ、こまつ芸術劇
場うららの建設にもご助言をいただきました。
「歌舞伎のまち小松」の発展にご尽力をいただき
ました。
今日まで小松で子供役者による「歌舞伎十八
番の内 勸進帳」が上演され続けているのは、こ
の縁があったからこそです。

現在も続く 成田屋とのつながり

「勸進帳小松・八百年祭」のときに結成された
成松会と市川宗家との縁が今も続くとともに、
十二代目團十郎さんの小松への強い思いは、十
一代目市川海老蔵さんに受け継がれています。
現在も、市民や子供たちへの指導に、市川翠扇
さんや市川新蔵さんを派遣いただくと、小松の
歌舞伎文化継承にお力添えをいただいています。
今年1月に十三代目市川團十郎白猿の襲名を
発表された十一代目市川海老蔵さんには、平成
28年に安宅の地での「勸進帳 小松特別公演」の
ほか、今年2月には海老蔵として最後の「勸進
帳」となった特別公演をうららで開催いただき
など、ご縁はさらに深まっています。

受け継がれる 「智・仁・勇」の心

主君を守るための弁慶の知恵、家来を信じる義
経の勇気、その二人の姿に情けをかける富樫の仁
愛。人としての大切な心を伝える勸進帳の「智・
仁・勇」の精神は小松市教育大綱の理念に位置づ
けられ、学びや教育の場で生かされています。
昭和61年から続いている中学校古典教室で
は、毎年各校持ち回りで生徒が勸進帳を上演し
ています。また、平成11年からは「全国子供歌舞
伎フェスティバルin小松」が始まり、地元小学
生による上演も行われるなど、ふるさと小松の
伝統文化の継承に努めています。



▲(左) 昨年の中学校古典教室当番校は松陽中学校。役者はもちろん、
着付けや化粧、裏方まで、全てを生徒たちの手で行っています。
(右) 大人の歌舞伎教室「小松市民歌舞伎」



▲義経や弁慶も見たであろう、時を越えて開花した「奇跡のハス」。清らかに生きる姿からも蓮華
(蓮と睡蓮の総称)は、仏教において格別な植物
とされています(撮影場所：日末蓮池公園)。

義経・弁慶 ハスものがたり
古代ロマンを偲^{しの}ばせる
親交の証「中尊寺ハス」
義経、弁慶は安宅の関を抜け、平泉の奥
州藤原氏を頼りますが、四代泰衡^{やすはら}の裏切り
によって最期を迎えます。そしてその泰衡
も頼朝に攻められて打ち首となりました。
やがて中尊寺に安置された泰衡の首桶か
らは約100粒のハス種が発見されます。
800年以上前の種にもかかわらず、現代
のバイオ技術によってよみがえり開花した
ハスは「中尊寺ハス」と呼ばれ、中尊寺境内
の池で栽培されています。
平成25年、小松は平泉との深いつながり
で、特別に中尊寺ハスを譲り受けました。
現在は日末蓮池公園や木場潟公園に株分
けされ、美しい花を咲かせています。

Another Story



注 目

日本遺産サミット 県内初開催内定！

平成28年認定の「珠玉と歩む物語」小松に加えて、平成30年には「北前船寄港地安宅」が9つの構成文化財（かつての北前船主の邸宅など）とともに日本遺産に追加されました。

令和3年11月には、全国104の日本遺産が小松に集う「日本遺産サミットinこまつ」が開催される予定です。



勸進帳ものがたり館

安宅町タ140-4 ☎21・6734

開館時間 9時～17時※当面は16時まで

入館料 大人300円
高校生以下150円

休館日 水曜日（祝日の場合は翌日）、
年未年始



北前船寄港地「安宅」の 歴史も感じよう

勸進帳ものがたり館に続く渡り廊下には、安宅まつりに使用された「曳船」が展示されています。古来より交通の要所であった安宅は、江戸時代に北前船寄港地として繁栄しました。安宅湊は水深が浅く、北前船のような大型船は入れず沖に停泊したため、荷物の運搬に伝馬船（小型和船）が活躍しました。曳船が町を練り歩く曳船巡行は、この伝馬船に帆をかけたものが用いられ、明治30年代の始まりから現代に至ります。展示された曳船は、1901（明治34）年に北前船を模して10分の1サイズで製作された二代目で、今回の展示のために、地元保存会の皆さんにより修繕されました。

今回曳船展示にあたり、保存会有志で帆の張り替えや修復を行いました。展示を機に多くの人に北前船や安宅の伝統文化を知ってもらい、実際に曳船が町を練り歩く安宅まつりにも足を運んでももらえればと思います。



安宅町曳船保存会
会長 弥三谷 章さん（左）、副会長 坂下 清貴さん
※今年の安宅まつりでの曳船巡行は中止となりました。

展示コーナーの壁面には、北前船についての解説もあります。北前船の歴史を学んだ後は、当時の風

情が残る安宅のまちに出かけてみてはいかがでしょうか。

Interview



体験を通して 楽しめる 歌舞伎ワールドへ ようこそ

こまつ曳山交流館みよっさ
名誉館長／古典芸能解説者
葛西 聖司さん

安宅勸進帳シアターで放映する「勸進帳」の映像が十二代目市川團十郎さんと、十三代目襲名予定の海老蔵さん親子共演の貴重な映像に変わり、解説入りで、さらに親しみやすくなりました。200インチの大画面です。

また「歌舞伎のまち小松」を意識して、歌舞伎の名作案内など華やかな歌舞伎ワールドを紹介します。さらに家族で楽しめる隈取や歌舞伎ポーズ体験コーナー、弁慶・富樫・義経の性格診断、舞台上での記念撮影など、楽しく参加できる工夫を凝らしました。

展示内容も随時入れ替え、リピーター大歓迎。まずは市民の皆さんが、ふるさと自慢できるよう、率先してご来館ください。私、葛西がお迎えしています。

安宅勸進帳シアター

勸進帳の名場面をダイジェスト映像で見た後は、舞台上のスクリーンに映し出される背景イラストの前で記念撮影ができます。



なりきり歌舞伎体験

AR（仮想現実）を用いて弁慶・富樫・義経の歌舞伎衣装や隈取などを体験でき、気軽に楽しく歌舞伎に親しむことができます。



新しくなった 勸進帳ものがたり館で 勸進帳の世界を 体感しよう！

7/26日
オープン

歌舞伎をより身近に、気軽に親しめる施設として「勸進帳ものがたり館」（安宅町）が7月26日に新しく生まれ変わりました。
古典芸能解説者葛西聖司さん監修のもと新しくなった勸進帳ものがたり館は、弁慶・富樫・義経の心情を4つのゾーンで紐解き、様々な体験型展示により歌舞伎の魅力を感ずることが出来ます。



勸進帳のふるさと安宅

勸進帳の基礎知識を紹介するほか、弁慶・富樫・義経の衣装を展示。また、安宅まつりの様子や風景などをスライドショーで映し出します。



難関突破体験

物語の醍醐味である難関突破。登場人物たちがどのような機転で突破したのか、クイズなどを通して楽しく分かりやすく紹介します。

4つのゾーンを巡ってみよう！

ATAKA FUTURE

観光名所として磨きをかけ、 市民にも親しまれる新たな安宅へ

安宅の関一帯は現在、「安宅の関址公園」に名称を改め、より観光名所としての魅力を高めて市民の皆さんにも親しんでもらえる場へと整備を進めています。

計画では、広々とした海見える空間を生かし、ベンチ・トイレの設置や園路のバリアフリー化、屋外デッキなど新たに拡充を行い、北陸新幹線小松開業の2023年にはより魅力あふれる公園に生まれ変わります。



※イメージ